

2023年度 事業報告書

(2023年4月1日から2024年3月31日)

特定非営利活動法人 はなはな ひろば
理事長 吉田 亜希子

1. 法人事業活動報告

特定非営利活動法人 はなはなひろばの第17期目の活動は、2023年4月1日から2024年3月31日の12か月である。

期末現在の会員数は、25名(この内休会会員は2名)、賛助会員数は12名である。

期中の新規入会会員は0名、脱退会員0名である。

新規ひろば立ち上げ

2021年から岸谷、東寺尾地区に新たな親と子のつどいのひろばの開設を横浜市が公募していたが、条件に合う物件が見つからず断念をしてきた。今年度の応募に向け、2022年10月頃から対象地域のケアプラザ、自治会、地元商店街の方々に協力を仰ぎ物件探しを始めた。6月に横浜市の公募が始まってからは、対象地域の13,580世帯にポスティングサービスを使い、物件の情報が得られるよう努めた。また、スタッフが近隣世帯、店舗などに直接出向き、物件探しのチラシ配布、掲示の依頼を行った。スタッフはもちろん、鶴見区以外のつどいのひろば、つるみままっぷ、ひろば利用者、タウン誌編集者など多くの方々にも物件探しに尽力いただき、ようやく見つけることが出来た。

横浜市の審査に通った新規ひろばはLicoと名前をつけ、開設の周知に力を入れた。

鶴見区の子ども家庭支援課と連絡を取りあい、地元自治会長の集まる自治連合会、民生委員の集まる会議、赤ちゃん訪問員さんの会議などに出向きPR活動を行った。また、はなはなひろば利用者の口コミでも広がり、オープン前より開設を楽しみにしている声が聞こえた。

Licoは岸谷地区の高台の住宅街で分かりづらいため、地域や自治会の方にポスターや看板作成、のぼり旗の設置などで場所の周知に積極的に協力して頂いた。

横浜市の審査に通ってからわずか2ヶ月の準備期間を、スタッフの多大なる尽力により2023年12月1日にオープンできた。

2. 事業内容 <特定非営利活動に係る事業>

I) 親と子のつどいのひろば事業

～ はなはなひろば ～

- ・ ほっと安心できる子育てひろばとして、0歳から未就学児とその養育者がいつでも自由に集える場の提供を目的とする。
- ・ ひろばの利用料は1家族1日100円。同じ日に再来することがあっても、一度受け付けていれば利用料はもらわない。
- ・ 月曜日から金曜日までの平日は毎日、偶数月の第2土曜日、奇数月の第3土曜日も開設した。毎週月曜日と水曜日の午前中を“赤ちゃんタイム”とし、主によちよち歩きまでの子どもと養育者だけがゆっくり過ごせる時間帯にした。
- ・ 日本語が理解しづらい利用者のために、英語版の利用のしおりを用意している。
- ・ 日常のひろば活動の他に養育者の希望も取り入れ、月2回程度のイベントを開催した。
- ・ 横浜市の「育児参加促進に資する取り組み」を実施し、土日に父親などが参加しやすいよう、保護者に向けたイベントを計画した
- ・ 養育者の育児負担の軽減を図るため、6か月から未就学の子どもの対象に一時預かりを行った。

- 地域に関係なく何処からでも発信できることや、何らかの事情でひろばへ足を運びづらい養育者のために「子育てメール相談」窓口を開設している。
- この事業は、横浜市「親と子のつどいのひろば事業」として委託を受けている。当期、委託金額は9,463,000円（うち一時預かりに関わる補助金は1,762,000円、家賃補助1,440,000円、研修代替職員配置加算分44,000円、震災対策補助30,000円、育児促進講座休日加算400,000円）。

④ 日常ひろば活動

通常ひろば活動日数：236日

(2023年9月7日は大雨警報、2024年2月5日午後は大雪注意報発令のため休館)

利用組数：1,959組 利用人数：4,063人（内新規 126組）

年度別広場利用実績推移

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
総開催日数	236日	236日	236日	202日	220日	239日
利用者数	4,063人	2,904人	2,480人	3,381人	3,650人	4,617人
1日平均	17.2人	12.3人	10.5人	16.7人	16.6人	19.3人

2023年度月別利用状況

月別利用状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	利用組数	100組	106組	159組	156組	181組	220組	251組
利用人数	214人	220人	330人	320人	385人	454人	520人	
月別利用状況	月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均
	利用組数	175組	160組	153組	139組	159組	1,959組	8.3組
利用人数	357人	332人	316人	286人	329人	4,063人	17.2人	

a) 利用者の受け入れ

- スタッフは子育て中の親が安心して寛げるよう心掛け、初めて来所した親子には、ひろばに打ち解け易いように意識的に働きかけ、居合わせた利用者に紹介した。
- 来所した利用者を快く受け入れ、利用者の話は内容に関わらず、しっかり聞くようにした。
- ひろばを利用する親同士が情報を交換し合うなど、ひろばでの出会いが新たな交流に繋がっていた。
- 気がかりな親子について保健師さんとやり取りをしながらサポートをした結果、その親子が通常利用できるようになった。
- 母親以外の保護者が利用するケースも増えた（父親・祖母など）
- ホームページで知ったという以外に、友人からの紹介やひろばの前を通った時に気になり来所した親子がいた。
- 小さいうちから子どもが保育園に入るようになってきているので、来所する子どもが低年齢化している。

b) コロナ感染症の予防対策

- スタッフは勿論のこと、利用者にもマスク着用・手洗い・検温をしてもらい、定期的な換気を徹底した。
- 利用は午前と午後で定員を設けた入れ替え制にし、開所時に加え昼の入れ替え後と午後の終了時にひろば設備等の消毒をした。
- 5月8日からコロナ感染症が5類に引き下げられてからも引き続き消毒、換気は行ったが、午前と午後に入れ替え制は無くし、ひろば利用の定員は解除した。
- 昨年度に続き、ひろば内では利用者の食事やおやつ時間は持たないことにした。

c) 広報活動

- ひろばの情報をより早く広く伝えられるよう、ホームページの他に SNS を有効に活用した。中でも公式 LINE の導入は有効であった。
- 区役所・保健センター・地区センターなど地域の子育て支援に関わる機関や赤ちゃん訪問員の方にチラシを配ってもらう等で「はなはなひろば」の紹介や宣伝をしてもらった。
- 区役所での4ヶ月健診時に、鶴見区の拠点と同区の「つどいのひろば」とが協力して各々ひろばのチラシを配った。その結果ひろば利用に繋がった親子もいた。各ひろばが寄り合う会議で11月以降は一時中止を決めた。
- 地域の子育て関連施設のチラシをひろば内に掲示、配架、または利用者に手渡しをして情報提供した。
- はなはなひろばの活動報告と実績も併せて報告することで、新規開設ひろば「Lico」のPRには地域の多くの人に関心を持ってもらった。

⑧ イベント

年間に催したイベントは次の通りである。

日常の活動を大切にするために、なるべくイベントの回数を抑えるようにし、今年度も月に2回程度開催した。講師は、地域の保育士、栄養士、元利用者、ひろばスタッフに依頼した。

イベント回数と参加人数

■ 通常イベント

イベント名	回数	参加組数	参加人数	内容
ママストレッチ	6回	34組	71人	子育てで疲れのたまった体をケアするよう、普段の生活の中で取り入れやすいストレッチを講師から学んだ。
ベビーマッサージ	6回	41組	82人	講師から個々のマッサージの意味や効果などの説明もあった。また、参加した親子それぞれへの対応も行った。
絵本とともだち	4回	27組	53人	季節感のある工作や絵本の読み聞かせ・ペープサートなど多彩な内容で子供に飽きさせないよう工夫されていた。子どもが楽器に触れる時間も提供。
英語で遊ぼう	3回	22組	45人	元ひろば利用者講師とダンスやゲームで遊びながら英語に親しんだ。
お話し会	8回	36組	73人	読み聞かせボランティアの方が、その日の子どもの様子を見ながら絵本や紙芝居の読みきかせなどをして親子を楽しませてくれた。
保育園の先生と遊ぼう	3回	24組	46人	近隣の保育園から先生にひろばへ来所を願い、手遊びや月齢に合った遊びを伝えた。その時々親の質問にも応じた。
保育・教育 コンシェルジュ相談会	2回	7組	14人	鶴見区の保育・教育コンシェルジュに来所いただき、保育園の選び方、申請の仕方を説明。参加者への個別対応の相談の時間も設けた。

その他

【夏祭り】と【開設記念イベント】は今年度は単独のイベントとして大掛かりなものではなかった。

夏祭り (8月28日～31日)		62組	131人	夏のお祭り気分を味わってもらえるように、一定期間、内容に工夫を凝らしたゲームやフォトスポットを設けた。
開設記念イベント (11月16日～20日)		36組	78人	ひろばの開設記念日前後には利用者が飾り付けに参加をして楽しんでもらった。
誕生日				誕生会に代わって、誕生日を迎える子どもに写真と手形をプレゼントし、その場に居合わせた親子とスタッフが歌を歌って成長を祝った。
避難訓練	7回			地震を想定した避難訓練を利用者にも加わってもらい行った。避難への誘導は毎回課題があり、その都度定例会で話し合った。

■ 育児促進講座

父親などの養育者が積極的に育児に関わることを目的とする、横浜市が新たに推奨した講座。養育者に向けた内容の講座を土日に、年間 18 回開催した。

絵本の選び方・読み聞かせ方	3回	17組	40人	お話し会の講師より、乳幼児にお勧めの絵本の紹介と養育者向けに絵本の読み聞かせのコツを学んだ。
乳幼児のお口のケア	1回	6組	17人	元ひろば利用者の歯科衛生士より歯の磨き方や、実物を見ながら口腔ケア用品の選び方を学んだ。
子どもの肌トラブル	1回	5組	11人	ベビーマッサージの講師から、赤ちゃんが肌トラブルを起こしやすい理由とケアについて話を聞き、参加者の個別相談にも応えてもらった。
アンガーマネジメント	1回	3組	6人	スタッフがファシリテーターとなり、イライラした時の自分の感情との向き合い方など事例をあげて対処方を話しあった。
子どもって面白い ～遊ぶ姿から見える発達～	1回	7組	15人	2歳頃からの成長と遊びについての話を聞き、実際に身近な道具を使った遊びを体験した。
防災講座	1回	7組	16人	在宅避難を想定した家庭での防災や備蓄について生麦消防署の方に話を頂いた。
好奇心いっぱい我が道をいく 1歳児さんと遊ぼう！	1回	4組	10人	スタッフ(保育士)が好奇心いっぱいの1歳児の子の保護者を対象にふれあい遊びや工作を行った。
写真講座	1回	6組	15人	プロカメラマンからスマホやカメラを使って子どもの動きのある写真や、かわいい写真の撮り方を教わった。
0歳からの性教育	1回	7組	15人	元ひろば利用者の助産師より赤ちゃんがお腹の中で育っていく様子を実物大の人形で学んだ。日常の赤ちゃんとの関わり方の話も聞いた。
離乳食講座	1回	7組	15人	離乳食を始めたばかり、又はこれから始める親子に対し近隣の保育園管理栄養士から離乳食について学んだ。
プレママ・プレパパ講座	2回	13組	26人	助産師さんに来所を願い、赤ちゃん人形を使って着替えや沐浴を体験。産後の過ごし方と心身のケアについても伝えた。
アサーション講座	1回	9組	19人	スタッフがファシリテーターとなり、イラッとした時、相手に怒らず伝えるにはどんな言い方があるか事例をあげて話し合った。
赤ちゃんとの接し方	1回	3組	8人	0歳の子を持つ保護者を対象とし、赤ちゃんの遊びと成長には深く関係があることを保育士から教わった。
乳幼児の応急手当	1回	6組	16人	誤飲、けいれんの時の対応、心臓マッサージの仕方、AEDの使い方を生麦消防署の方から学んだ。
パパによる ベビーマッサージ	1回	6組	15人	父親対象のベビーマッサージで、父親が子どもと触れ合った。母親同伴の参加者もいた。

合計 50回 (296組 628人)

◎ 一時預かり

今年度の一時預かり実績は次の通りである。累計登録者数は3月末まで639名（今年度は47名）となっている。

一時預かり活動日数：236日

- 預かり時のスタッフ体制は1人の子どもに対して必ず1人のスタッフを配置し、安全に細心の注意を払った。
- 預かり登録数は増えつつあるが実際に利用するところまで至っていない親子もいる。
- 他の子どもの預かりの様子を見て、利用を迷っている親が自分も預けてみようという気持ちになれるよう働きかけた。
- スタッフの多くが預かりを担当するようになった。
- 預かりの時に気付いた課題についてはその都度話し合いの場を持ち、スタッフ全員が共通認識を持つようにした。
- 事情を抱える親子についてはスタッフ全員に周知し、預かりの際には落ち度のないよう細心の注意を払った。
- 親の事情で急に預かりを依頼された時はできる限り要望に添えるようにした。
- 預かり中は、通常のスタッフも積極的に預かりの子どもや担当スタッフへの気配りをした。
- 預かりのある時に居合わせた親子が、預かりの子に優しく気持ちを寄せてくれていた。
- 一度預かりを利用すると、繰り返し利用する保護者が多かった。
- 預かりの利用者は前年度に比べて約95%、利用時間は約113%となっている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
利用者数	12人	7人	7人	6人	4人	5人	7人
総利用時間	31.5時間	19時間	23時間	18時間	14時間	12時間	19時間
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
利用者数	9人	6人	7人	13人	22人	105人	110人
総利用時間	22.5時間	15時間	25.5時間	32.5時間	65.5時間	297.5時間	263時間

⑩ 地域との交流

- 元ひろば利用者や近隣の方々からの好意で使わなくなった子供服やおもちゃ等の提供を受け、ひろばを利用する親子に譲ったり、フリーマーケット用などに充てた。
- 同じ地域で活動している「NPO法人 なまむぎこども食堂」との交流が続いている。
- 鶴見区の「NPO法人ままっぷ」の活動に協力し交流した。（「ウエルカムベビープロジェクト」の広報と応募した母親へのプレゼント受け渡し）
- 近隣の保育園や子育て中の親の会などから、会の案内やイベント等の情報が寄せられた。
- 地元自治会と交流し、ひろば活動に関する情報提供を行った。

～ Lico ～

- 気軽に立ち寄れるひろばとして、0歳から未就学児とその養育者がいつでも自由に集える場の提供を目的とする。
- ひろばの利用料は、1家族1日100円。当日中であれば、再来しても利用料はもらわない。
- 月曜日から金曜日までの平日、毎日午前10時から午後4時まで開所した。
- ひろば利用に定員はなく、1日を通して利用者が好きな時間に自由に利用できるようにした。
- 日常のひろば活動の他にイベントを企画し、利用者に喜ばれた。
- この事業は、横浜市「親と子のつどいのひろば事業」として委託を受けている。当期、委託金額は4,153,000円（うち家賃補助480,000円、研修代替職員配置加算分44,000円、震災補助100,000円、開設準備1,600,000円）。

④ 日常ひろば活動

通常ひろば活動日数：69日（2024年2月5日午後は大雪注意報発令のため休館）

利用組数：470組 利用人数：984人（内新規 94組）

2023年度月別利用状況

月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均
利用組数	155組	99組	108組	108組	470組	6.8組
利用人数	343人	208人	208人	225人	984人	14.3人

a) 利用者の受け入れ

- スタッフは親子が安心して寛げるような環境づくりを心掛けた。
- 初めて来所した親子には、ひろばに打ち解けやすいようにスタッフが意識的に働きかけ、居合わせた利用者に紹介するなどした。
- 来所した利用者を快く受け入れ、利用者の話は内容に関わらず、しっかり聞くようにした。
- 気がかりな親子について保健師さんとやり取りをしながら見守りをした結果、その親子の継続したひろば利用に繋がった。
- ひろばを利用する親同士が情報を交換し合うなど、ひろばでの出会いが新たな交流に繋がっていた。
- 母親以外の保護者が利用するケースもあった。（父親・祖母など）
- 鶴見区の支援拠点や他のひろばからの紹介、近隣の掲示を見てひろばにやって来るケースが多かった。
- 小さいうちから子どもが保育園に入るようになっているので、来所する子どもが低年齢化している傾向があった。

b) 広報活動

- SNSを活用して、よりタイムリーな情報発信が出来るようにした。
- 写真を多く使ったSNSで興味をもった親子が、ひろばを利用する前からお気に入り登録をしているケースもあった。
- 子育て支援会場や地域の赤ちゃん会でひろばの宣伝の時間を作ってもらい、親子に直接話しかけチラシを配った。
- 自治会の方や民生委員さんと連絡を取り合い、ひろば近隣に看板を作成、設置をしてもらい、ポスターを張るなどして場所の周知を工夫した。
- 自治会の掲示板へチラシを掲示させてもらった。
- 地域の子育て関連施設のチラシをひろば内に掲示、配架、または利用者に手渡しをして情報提供した。
- 区役所とも密に連絡を取り、場所の周知のために一緒に近隣を訪ね、自治連合会への挨拶に出向いた。

⑧ イベント

12月1日に開設してから催したイベントは次の通りである。

イベント回数と参加人数

イベント名	回数	参加組数	参加人数	内容
誕生会	4回	26組	54人	参加者全員で歌を歌って誕生児をお祝いした。絵本の読み聞かせや写真撮影も行い、誕生児へはプレゼントとして、手形と写真入りのカードを渡した。カードは自宅で飾っている、との声も聞かれている。
足形アート	3回	21組	43人	子どもの足形を使って、季節に合わせたテーマで足形アートを作成。毎月のように参加を楽しみにしてくれている親子もいる。
おやこで心のねっこをはぐくもう	1回	4組	8人	自己肯定感について学べる親向け講座。自信を持って育児をしてもらいたい、自分を大事にして欲しい、という講師の思いが込められており、参加者は頷きながら講師の話聞いていた。
ベビーマッサージ	2回	10組	21人	講師から個々のマッサージの意味や効果などの説明もあった。また、参加した親子それぞれへの対応もしてもらえた。
寝相アート (今後はベビーアート)	1回	6組	12人	床に背景を作るため、0歳児の親子参加が多かった。養育者とスタッフが協力しながら、それぞれの子どもの写真を撮影することができた。
ミニクリスマス会	1回	8組	18人	親子でトナカイの三角帽子を製作した。そして手遊びや読み聞かせを行った後、サンタクロースが登場。クリスマスの演出をした。

合計 12回 (75組 156人)

⑨ 地域との交流

- 民生委員さん、自治会長さん、生麦商店街や地域の方々にも開設場所の物件を探してもらい、地主さんや不動産会社の紹介、チラシ掲示などの協力を得た。
- 近隣の保育園や子育て中の親の会などから、会の案内やイベント等の情報が寄せられた。
- 自治会や地域の方と交流をもったことで、ひろば周知への協力を得られた。
- ままっぷや、つどいの広場こまーま、キッチュのSNSなどでも、新たなつどいの広場が出来たことを写真付きで紹介してもらった。

II) おでかけ広場

近くに“おやこのひろば”のようなくつろげる場がない親子のために、鶴見区社会福祉協議会との共催で同社協の一室で「おでかけ広場」を開設した。(感染症予防のため利用できる組数を決めたの開設となった)

月2～3回、主に金曜日の午前10時～12時の2時間。

開設：25回 利用人数 123組 254名 (1回平均 前年度比 0.96倍)

- 利用する親子は、生麦にある「はなはなひろば」までは遠いので足を延ばしづらいが、「おでかけ広場」なら行きやすいというので利用していた。
- 「おでかけ広場」の利用をきっかけに「はなはなひろば」まで来たり、イベントに参加する親子もいた。

III) 子育てメール相談

- 以前にひろばを利用していた方以外はメール相談は無かった。昨今は様々な相談ツールが増えているためだとも考えている。
- 初めての子育てでは、経験者から見ればほんの些細に思える事柄でも、様々な子育てに関する情報が溢れているためにかえって不安を抱いてしまう場合がある。そのような時に話せる人がいなかったり、また自分から直接相談に出掛けにくい場合の相談ツールのひとつとして窓口の開設を続けてきた。

貸借対照表

2024年3月31日 現在

特定非営利活動法人 はなはなひろば

(単位：円)

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	90,228	
預金合計	3,243,976	
流動資産合計	3,334,204	
2 固定資産		
固定資産合計	340,000	
資産合計		3,674,204
II 負債の部		
1 流動負債		
流動負債合計	799,988	
2 固定負債		
固定負債合計	0	
負債合計		799,988
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	3,797,626	
当期正味財産増減額	-1,263,410	
正味財産合計		2,534,216
負債及び正味財産合計		2,874,216

2023年度 活動計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人 はなはなひろば

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費 正会員受取会費（賛助会費含む）	119,800	
2 受取寄附金 受取寄附金	178,700	
3 受取助成金等 受取補助金（横浜市子育て支援課）	14,070,000	
4 事業収益 利用料、一時預かり利用料	368,050	
5 その他収益 受取利息 雑収入	34 29,869	
経常収益計		14,766,453
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費 給料手当 人件費計	6,490,400	6,490,400
(2)その他経費 旅費交通費 交際費 公租公課 事務用品費 謝金 修繕費 消耗品費 新聞図書費 水道光熱費 送金料 諸会費 家賃 賃借料 通信費 保険料 印刷費 会議費 備品費 雑費 その他経費計	808,352 55,643 4,600 178,000 209,700 1,716,111 20,845 146,896 7,502 35,875 5,007,000 6,020 128,191 125,180 215,680 43,109 487,959 2,400	9,199,063
事業費計		15,689,463
経常費用計		
当期経常増減額		
III 経常外収益		0
経常外収益計		0
IV 経常外費用 雑損失	-400	
経常外費用計		
当期正味財産増減額		-923,410
前期繰越正味財産額		3,797,626
次期繰越正味財産額		2,874,216